

真宗と現代葬儀

「葬儀」と「死」のゆくえ

がまいけ せいし

蒲池 勢至 著 ▼ 46判・並製カバー・148頁・定価 一、四三〇円

2022年1月刊行



商品化し世俗化した葬儀。ホトケですらない死者。急速に変化する現代葬儀に真宗はどう対応するのか。真宗民俗から問う葬儀と死のゆくえ。

【目次】

I 真宗と現代葬儀の課題

はじめに——問題提起
現代葬儀の研究状況
葬儀の変化
死者・先祖観と儀礼システムの崩壊
真宗儀礼の教学的根拠——「儀礼」と「死者」の課題
葬儀をどうするか
おわりに

II 真宗民俗から現代葬儀を問う

仏教民俗としての葬送墓制研究
儀礼の崩壊
世俗化と無縁化

III 死をいかに見つめるか

民俗と真宗の死生観
死を見つめて／遺体を放置する民俗／遺体と執着の問題／無墓制と真宗の墓制観／真宗の葬儀観
「白骨」——無常を生きる
はじめに／「それ、人間の浮生なる相」／「いまにいたりて」／「しずく」／「朝」と「夕べ」／「甲斐あるべからず」

IV 「葬儀」と「死」のゆくえ

／「夜半のけぶり」／「頼み申して」／存覚法語／後鳥羽上皇／無常講式／自分たちで／死に対する観念／激流を渡れ／後生の一大事
どこへゆく、「葬儀」と「死」
家族葬で閉ざされた死／失われた生と死の円環
コロナ禍と真宗の葬儀
葬儀と死の意味を取り戻す／「死」と「往生」

あとがき

◆著者略歴

一九五一年愛知県生まれ。同志社大学文学部文化学科・同朋大学文学部仏教学科卒業、博士(文学)。専攻は民俗学。同朋大学特任教授、同大学仏教文化研究所研究顧問、真宗大谷派名古屋教区長善寺前任職。
著書に『真宗と民俗信仰』(吉川弘文館)、『真宗民俗の再発見』(法藏館)、『民衆宗教を探る 阿弥陀信仰』(慶友社)、『お盆のはなし』(法藏館)、『真宗民俗史論』(法藏館・二〇一四年柳田賞受賞)、『真宗門徒はどこへ行くのか』(法藏館)、『探訪 真宗民俗——儀礼の伝承と現代社会』(東本願寺出版)、『太子信仰』(編著、雄山閣)、『蓮如上人絵伝の研究』(共編著、東本願寺出版)などがある。

注文書	
(書店印)	
ご担当	様冊
蒲池勢至著	
法藏館	
定価 一、四三〇円	
真宗と現代葬儀	
——「葬儀」と「死」のゆくえ	
ISBN: 978-4-8318-6269-3 C1015	
お名前	住所
お電話	

ご注文はFAX: 075-371-0458

法藏館

〒600-8153 京都市下京区正面通烏丸東入
TEL 075-343-0458 FAX 075-371-0458
http://www.hozokan.co.jp info@hozokan.co.jp

真宗